

あすとろ通信☆三

VOL.56
2022.9

岡山アストロクラブ会報

☆ c o n t e n t s ☆

- * 「スターパーティ in 白木峰」紀行
- * 新連載小説 真夜中の探し物①
- * 星々のなまえ
- * シン・会員紹介
- * 天文川柳
- * 昔日の一葉

Hawk
オーモリ
Sirius
てつにい

T#

よみもの

「スターパーティ in 白木峰」紀行

8/27(土)～8/28(日)にかけて、長崎県諫早市 白木峰高原で開催される「スターパーティ in 白木峰」に参加してきました。今回は「初歩のアストロ電子工作」はお休みして、「スターパーティ in 白木峰」に参加した様子をお届けします。

○スターパーティ in 白木峰とは
長崎県諫早市 白木峰高原で開催されるスターパーティで、春(4月頃)／夏(7～8月)／秋(10月頃)の年3回開催されます。
下記 URL が、公式ホームページとなりますが、初回は平成14年開催と、もう20年くらいの歴史があり、地元の天文クラブの方が実施されている、フレンドリーな雰囲気観望会です。

<http://welovestarparty.g3.xrea.com/>

初回開催時(H14年)の運営方針を見ると、
1) 普段のままの星見スタイルで行う。
2) 開催場所は固定ではなく、持ち回りとする。
3) 参加者全員が主役です。
4) 非営利目的での開催とします。
という方針が挙げられており、さすがに2)の開催場所は、近年は「白木峰高原」に固定されているみたいですが、気負わず、普段のままの観望スタイルで、なので、OACでいえば、普段の観望会をそのまま「スターパーティ」として実施しているような感じで、小規模ではありますが、集まる人はなかなか強者が多く、いろんな方の話を聞くのが大変面白い、ゆったりとしたフレンドリーな感じのスターパーティです。「普段のままの星見スタイル」ですので、「星まつり」のように出店やコンサート等はないですが、中国地方から行くなら、長崎市内観光も兼ねていくと、とても楽しいイベントとなるでしょう。

余談ですが、長崎市といえば、かつては「天文ハウス TOMITA」の本店が長崎市にあり、スターパーティの実行委員・参加者の方も、TOMITAの常連さん達が多く、そして一般の方ももちろん参加自由ですので、OACも実施しておりますが、やはり「天文クラブ」というのは、こうした「天文活動の普及」に力を入れるのも大

事ですね。

○当日の行動(出発)

前述のような感じのスターパーティなのですが、私は過去に何回か参加したことがあり、というのも、宮崎在住の友人「べんべん」と、今回も長崎で落ち合って九州地区での観望会を楽しむべく、現地に向かいました。

まず出発は8/27(土)の朝。広島から現地までは約460kmの行程。高速道路で6時間程度というところでしょうか。普通の人なら朝早くから出発!となるところですが、そこはそれ、土曜の朝なのでゆっくりと起きて、車に機材を積み、09:30頃自宅を出発しました。

お気に入りの音楽をかけながら、高速道路をひた走り…高速ってほんとに退屈ですよ。道中楽しいことはないかしらん?と思いながら、時にサービスエリアで休憩を挟みながら、天気も見るとなかなか快晴で、こここのところ天気が良くなかったのですが、今夜は新月期ということで良い空が期待できそうです。



友人の「べんべん」とは、白木峰高原の手前の「諫早市」で16:30に待ち合わせます。諫早市を過ぎると、白木峰高原まで大きな街がないので、早めの夕食を食べて現地に乗り込もうという作戦です。

予定どおりの時間で待ち合わせ場所に到着し、

さっそく夕食を食べに行きます。「長崎」といえばやはり「皿うどん」とか「チャンポン」を外すわけにはいかないでしょう。

「諫早市」の老舗中華料理屋「李花」さんに伺って、チャンポンを注文。このお店は、昨年も来たことがあり、非常に美味しかったので、リピート訪問です。

この日、実はお店のほうは、コロナのせいで「配達のみ・店内飲食不可」だったのですが、我々が県外から来たということで、ありがたいことにお店をあけていただき、チャンポンにありつくことができました。

チャンポンは「生麺」を使用していて、「生麺」を使ってるのは、諫早ではここだけとのこと。

もちもちした食感で、海鮮の具がたくさん入り、スープは薄口ですが、ほんわかするような暖かい味付けで、「これまで食ったチャンポンの中で一番美味い！」と断言できます。なんかグルメ紀行のようになってきましたが、そんな感じで非常に美味しいので、皆様も諫早市に行かれたらぜひどうぞ。



○現地到着～観望

夕食も食べたところで、現地（白木峰高原）に乗り込むことにします。

諫早市から白木峰高原まではそれほど遠くなく、時間にして 30 分そこらで現地に到着します。

現地には既に、何人かが到着しておられました。

現地はアスファルト舗装された広い駐車場で、四方の見晴らしもよく、トイレもありと、観望会には絶好のポイントです。

これくらい広くて整った環境だと良いですね～。もちろん OAC の観望会場所も同じような環境なのですが、トイレの常夜灯は 21 時には消え

るようで、なかなかに素晴らしい。

この日は、21 時くらいまでは少し雲がありそうですが、それ以降は快晴のようで、良い空が期待できます。



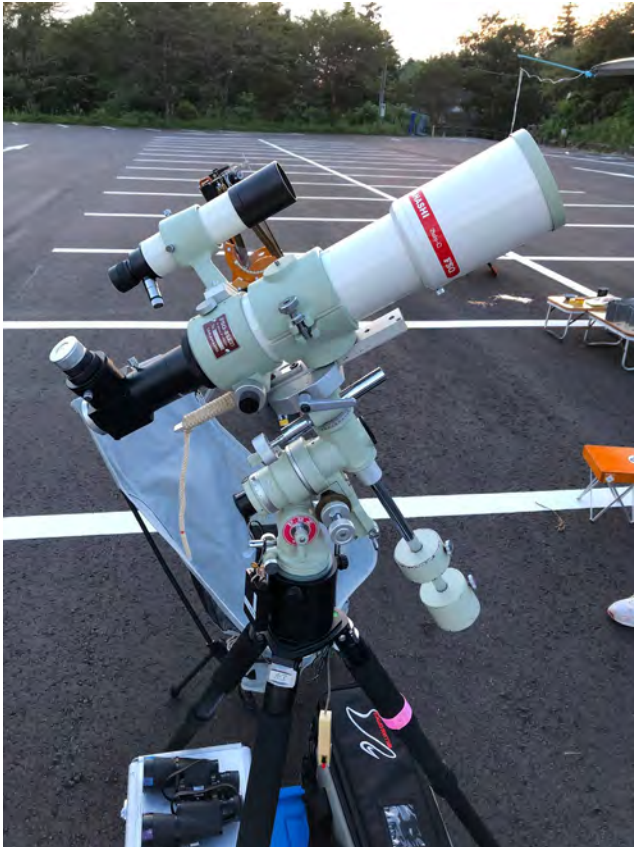
べんべんさんと私も機材のセッティングを始めます。我々の機材なんか、1 個しか持ってきてないので少ないものです。さくっとセッティングして、観望に備えます。



日が沈むまで、観望会に来てる皆さんとお話を。年に 1 回しか来ることないので、なかなか見知った方も少ないのですが、いろいろ見させてもらいながらお話を伺います。

こちらは、巷では有名な「ten」さんの機材。すごいですね～。タカハシの P2Z 赤道儀をこよく愛しておられ、FSQ を載せて、なんと「眼視仕様」です。P2Z 赤道儀の純正ハンドコントローラーが泣けてきます。

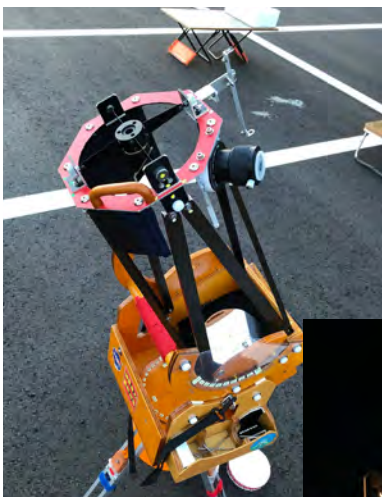
ten さんの機材は、ネットではこちらのほうが有名でしょう。木工工作で丁寧に作られており、



114mm の小型ドブソニアンですが、眼脂のための様々な工夫がされていて、天体導入のためのアイテム（ファインダー）としては

- ・夜光塗料で塗られた、高度／方位目盛り
- ・直視型ターゲットサイト
- ・テルラドファインダー

と、3つのファインダーがついており、そのどれもが実用的です。エレキに頼らない、アナログ的な姿勢が良いですね～～。



直視型ターゲットサイト
前後に溝を設けており、溝から星を覗くことで、0.5度の導入精度があります。



このドブソニアン、実は小さくたたむと、こんなふうに小さくできます。収納性抜群で、車に乗せても場所をとりません、



こちらは友人の、べんべんさんの機材。タカハシ 90S 赤道儀の上に、Sharpster90 の鏡筒が乗ってます。昭和の時代のタカハシの赤道儀、良いですね～～。根強い人気があります。

皆さんの機材を見せてもらいながら話をしていると日も沈み、観望開始と行きたいところですが、まだ少々雲が残ってたので、ここで早めの夜食を。



スーパーで、焼き鳥とか買ったので、バーナーであぶって食べながら、もちろんお酒も用意してたので、ビールも飲みつつ腹ごしらえを。

「ガスの炎で焼き鳥なんて邪道じゃ!!」なんてどこかのマンガで言われそうですが、そんなことは気にせず、直火であぶって焼き鳥を食します。

温まった焼き鳥は美味しい・・・

ついでにフライドポテトなんかも買ったので、こちらも温めて食べます。油をひいてないので焦げまくりですわ・・・料理もそれなりに準備が必要ですね。日頃からアウトドアしてないのがバレバレだなあ。



お腹もふくれたところで、時刻は 21 時頃。予報どおり天気もよくなり、観望日和になりました。皆さんの機材を覗かせてもらいながら、自分の機材も覗いて、観望を楽しみます。

こちらは、Ninja400 を持ち込まれた方。一般のお客さんも来られたので、順番待ちの列ができ、皆さん楽しく見ておられました。



こちらは、ユニットロンの 100mm / F15 望遠鏡を持ってこられた方。長めの鏡筒ですが、さすがに F15。像質はすばらしいものがあり、土星を高倍率で楽しませていただきました。



引用：天リフさんブログより

そんな感じで、いろんな方の望遠鏡を見させてもらい、いろんな人と語り合いながら夜は更けていきます。この日は、12 時頃一時曇ったのですが、その後はまた晴れ、結局、4 時ぐらいまで観ておりました。私はそのあたりで眠気がピークに達して脱落・・・寝る前に、持ってきた「足湯セット」で、お湯をわかして足湯をして、車内の布団に潜り込みます。

この「足湯セット」、まあ何のことはない家庭用の「フットバス容器」に、バーナーで湯をわかして入れるだけなのですが、車中泊で寝る前に、足だけ洗って寝ると、非常に熟睡できるのです。天体観測って現地でお風呂入るのが難しいですが、足だけでも洗うと熟睡感がまるで違い、とてもおすすめなので、皆さんもよろしければお試しください。



引用：天リフさんブログより

翌朝起きたら、既にあらかた皆さんお帰りで、ten さんともうお一方と、我々の計 4 名が残っておりまして。朝ご飯のおすそわけ等をいただいて、まったり過ごしながらか解散します。Ten さんは完徹だったそうで・・・

一晩だけの観望会ですが、こうして知り合いの方と話をしながら、まったりと観望するのは良いですね～。天文もいろんな楽しみ方がありますが、私はどちらかという、皆さんの機材を見せてもらいながら、皆さんといろいろダベりながら、まったり～～と観望を楽しんでおります。

○帰路

スターパーティも終わり、ではこれからいよいよ長崎市内観光か！というプランを練ろうかというところで、べんべんさんも私も、夜更かしがたり、「長崎まで 40km あるよね・・・行く？」とか言いながら、最終的に「近場で風呂だけ入って帰ろう！」ということになりました。

「近場でお風呂」ということで、早朝から空いてる風呂屋を探すのですが、最近、どこも 10 時間開店なんですよ～。今はまだ 08:30 くらいだしどうしたものかな～と思って探していると、佐賀方面に 10 数 km 戻ったあたりに、08:00 からやってる貴重な風呂屋を発見。「平谷温泉」という温泉ですが、ここを目指してしばし走ります。

車で走って約 40 分（山道を抜けたので時間かかっております。）「平谷温泉」に到着です。お風呂場の写真を撮れなかったのですが、これがお風呂からの景色も素晴らしく、地元の人も多く来られてるみたいで、なかなかの穴場温泉です。何より朝 08:00 から空いてて、スターパーティ明けに来れるのがすばらしい。温泉を堪能させてい



たきました。

温泉から上がると、なんと、「かき氷」の看板があります。しかも「セルフ方式」とのこと。氷かけ放題です。これは食べないわけにはいかないでしょう。かき氷機にキューブアイスのを要れて削るタイプなのですが、欲張って氷を 20 個入

れて作ったら、器に入りきらないくらいに氷が出てきたので、氷を圧縮して固めつつ、最終的に、超高密度の重量級かき氷ができました・・・やり過ぎです・・・キューブアイスは 10 個程度く



らいまでにしましょう。でも、風呂上がりのかき氷は美味しかったです。

○おわりに

以上、「スターパーティ in 白木峰 紀行」いかがだったでしょうか。「普段のままの星見スタイルでのスターパーティ」なので、星祭りのような大きなイベントではないですが、こうして、長崎の地元天文クラブの方と交流できるのも良いですよ。ゆったりした雰囲気の中で、いろいろ観望させてもらって話をして、で、ついでに「長崎観光」もして帰る。今回は長崎市内までは出れなかったですが、皆さんお時間あれば、ぜひ長崎市内も訪れてください。長崎中華街で食べる「皿うどん」がこれまた美味しいです。本来は 2 泊 3 日くらいで楽しみたいスケジュールですが、社会人なので、そこはそれ、強行スケジュールで。

でも、帰りの車の長距離運転にはお気をつけください。私も帰りの高速で何度寝そうになったことか。天文趣味は夜更かし必須なので、その後の体調維持をどうするかも大事ですよ。

皆さんも行かれたら、時間に余裕のあるスケジュールで訪問され、スターパーティをお楽しみください。

執筆—hawk



街灯が仄明るく照らす舗道を十代の少女が一人、あてもなく歩いていた。いつもは通らない道を行ってみよう——何となく、何気なくそう思っただけだ。僅かな夜風が短めの髪をそよがせる。裾をまくり上げたカーキのパンツと黒のカットソーが微かな風に踊る。

夏休みも終盤に入り、やる事もなくやりたい事もないので時間だけ持て余す。宿題は例外だ。「やる事」ではあるが「やりたい事」ではない。それに夏休みの宿題は新学期が迫ってから慌ててやる物だという言い訳も準備している。コンビニで買ったカフェオレを飲みながら歩いていて気づいた。

「あ……そう言えばコンビニに行くって出かけたんだっけ」

少女は思い出した事を重要とは考えなかった。深夜と言っていい時間だが、どうせ帰っても眠れないし、小一時間の散歩くらいは許されるはずだ。住宅街だしそう心配する事はない。

そう考えて更に奥へと進んでみる。日中ではさえないような道を一人テクテクと歩を進める。思えば小さな頃は近所の友達とこんな小さな探検を毎日のようにやっていたはずなのに。いつからだろう、やらなくなったのは。その頃の自分たちを包み込む世界は——知らない事・分からない事だらけで毎日が発見と驚きの連続だった。

なのに今は——全てが灰色で無機質で埃っぽい。「あの頃」と「今」のギャップに胸が苦しくなる。

「いいや、もう少し行ってみよう」

一つ深呼吸をしてまた歩き出した。少し進むとネットに囲まれた広い空間——公園を見つけた。最近では危ない遊具がなくなっていると聞いたが、さすがに鉄棒とブランコは健在だ。「あの頃」が懐かしくてブランコに乗ろうと入り口をくぐった時。

グラウンドの片隅に同年代の男子の姿があった。

「あ」

「あ」

目が合った。間違いなく見覚えのある顔。理解した途端にダッシュでブランコめがけて走る。追いかける男子。

「ほあああああああああ！」

「ちょ、ちょっと待ってっ！」

「ごめんなさいごめんなさい邪魔してごめんなさい！」

「別に怒ってないって！なんで謝る？」

ブランコの支柱を挟んで向かい合う——と言うより対峙する。

「いや……だって……夜中の公園で男子が一人って……なんかヤマシイ

事してるんじゃない？」

「なんでだよ……久し振りに会ったってのに、そっちの方が失礼だろ」

「……ごめん、英一君」

「とにかく。見てみろよ」

男子が自分がいた辺りを指さした。

身の潔白を証明するために連れて行こうというのだが、少女は目を合わせずに断った。

「その……なんか……邪魔しても……」

「いやな、誤解したまま気を遣うのはやめてくれよ、ほのかちゃん。こっちが困るから。ほら」

ほのかと呼ばれた少女は俯いたままついて行く事になった。ここで固辞するのも悪い気がしたのだ。

「あ……これって……」

「そう、天体望遠鏡。モフオクで買ったんだよ」

「そっか……最大級のネットオークションだもんね、売ってても不思議じゃないか」

モフモフしたマスコットキャラクターで有名なネットオークションだ。

トラブルも少なく、初心者でも使いやすい。

「そう言えば英一君って小さい頃から宇宙が好きだったよね」

「そう、矢沢の英ちゃんは宇宙が好きなんだよ。YAZAWAの英ちゃんはロックが好きだけどな」

ほのかはやつと笑った。小さな頃に図鑑で一生懸命に解説してくれた事を思い出したのだ。何もかもが新鮮で楽しかったあの頃。今となつては遠い世界。いつかまた、あんな風になれるのだろうか。

そんな気持ちは胸の奥に仕舞い込んで素朴な疑問をぶつけてみた。

「コレって……本当に見えるの？」

「じゃ覗いてみろよ。ほら、ここからこうやって……」

接眼レンズを指してから実演してみせる。変わってやってみると……。

「……ん？なんか……真っ暗……」

「斜めになってるからだよ。レンズの真上から真っ直ぐにこう近付いていけばいいんだよ」

「えっと……こう……かな……？」

何度か繰り返していると、何か光る物がみえた——気がした。

「これ……なのかな？なんか丸いのが……ある」

「木星だよ」

「ええ！？これがあ！？」

英一が自慢げに胸を反らして頷く。驚いてくれると嬉しいものだ。自転速度で少し楕円になっている事、縞模様の事など流れるように解説していく。それを聞きながら眺めているうちにほのかが笑い出した。

「なにか面白かった？」

「ううん、昔を思い出しただけ。よくそうやって解説してくれてたなって」

「そうだった」

「そうだよ。懐かしいな……」

笑っている筈の横顔が少し寂しそうな事に気づいた。小さな頃はよく一緒に遊んでいた。屈託のない笑顔が印象的な女の子だった筈だ。中学に入ってから同じクラスになることもなく、友人関係も変わりいつの間にか縁が遠くなっていた。高校はどこに進学したのかも分からなかった。幼い頃の間人関係はいつしか変わっていく。人はずっと同じではいられない。成長するということとは変わっていくということでもある。でもどんな風が変わっていくのかは大事な事だ。そしてほのかの場合は……察するにあまりいいとは言えなさそう。

「どうしたの？元気ないな」

「そうかな？」

「そうだよ。なにかあったんなら言ってみなよ。いくらでも聞くからさ。」

小さい頃みたいに全部吐き出しちゃえばいいじゃん。他に誰も聞いてないんだし」

もっと巧く言えたらいいのに。こんな時はもっと大人でいたいのに。

でも今はこれくらいしか言えない。そんな自分でもどかしかった。

ほのかは少し俯いて黙っている。迷っているの

か勇気が出ないのか。

こういう時は沈黙に付き合うべきだろう。そのくらいは英一も分かっている。

数分の沈黙の後、ほのかが少しずつ語り始めた。

中学に入ってから徐々に周りとはズレてきて「浮いた」存在になってきた事。それが怖くて自分から話しかけることも減っていき、いつの間にか周囲と「壁」が出来てしまった事。高校に入ってからその状態が続いている事。

「そっかあ……そりやしんどいなあ」

「うん……でも、もう慣れちゃったし」

「いや慣れちゃダメじゃん！」

「あ……ごめんなさい」

「いや謝る事じゃないって」

「うん……そうだね、ごめんなさい」

「いや、だからさ」

二人顔を見合わせて吹きだした。夜の公園に軽快な笑い声が流れる。

ほのかが大きく息を吐き出した。いつ以来だろう、声を出して笑ったのは。胸の奥が少し軽くなった気がした。

「ありがとう、英一君。久し振りに笑えた……気がする」

「実際に笑ってたって。久し振りかどうかは聞かない事にしとく」

「うん、ありがとう」

「じゃ、ついでにもう少し見てく？あんまり難しいのはまだ無理だけど、簡単なやつなら出来るよ」

「うん、見てみたい」

ベガとアルタイル、アルビレオと解説付きで空を散歩して行くと落ち着いてきたせいか何やら音が耳についた。

「ねえ……この音ってなに？」

「ああ、モーターの音だよ」

「モーター？」

英一は地球の自転と星の動きの関係、そしてそれを追いかけるモータードライブの存在を説明した。

「へえ……科学だね……」

「まあ天文学は科学の代表格だしね。これはかなり古いタイプだけど」

「そうなの？」

「ああ、DOXENのGP赤道儀……つっても分かんないよな。二桁年前のモデルだから安いんだよ。ついでに乗っかってる望遠鏡も同じくDOXENの80ミリ屈折で……」

ほのかが固まり始めたので解説は止めることに

した。

「そろそろ帰ろうか。送ってくよ」

「い、いや大丈夫だよ……一人で帰れるし」

「こんな時間に女の子一人じゃ危ないだろう。ちょっと待って。片付けるから」

テキパキと片付けて、鏡筒と赤道儀と電池ボックスはリュックに、三脚は筒状の袋に入れて肩にかけた。これはロッドケース——釣り竿を入れて運ぶものを改造したらしい。

そして公園の出口に行くのと止めてあったバイクに跨がってエンジンをかけた。2ストの軽快な音が弾ける。

「英一君の学校ってバイク OK なの？」

「……内緒な。近くだし機材が重いからって兄貴に借りてるだけだから」

「……わかった」

「じゃ、これかぶって後ろに乗って」

「……はい」

男子がかぶっていたヘルメットをかぶるのは、まだ緊張する年頃だ。

（これは英一君がかぶってた……いやいや、お兄さんがかぶってるやつを借りたのか……バイクを借りてるだけなんだからヘルメットも借りてる可能性が高そう……でもこれは自分で用意した可能性も否定できないし……）

「ほら、近所の迷惑になっちゃいけないし、早く」

「あ、はい、ごめんなさい」

「また謝るんだから」

英一の笑顔はあの頃と変わっていないように見えた。タンデムシートに横乗りしてリュックの端をつまんだ。

「……それじゃ危ないよ。しっかり掴まって」

「でも……」

「落ちるから、ほら」

ほのかの手を取って自分のお腹に回す。英一の背中には機材があるので密着とはいかないが、ほのかにはほのかには充分過ぎるほどの刺激だった。

「じゃ、落ちないように。家は昔と同じだよな？」

「は、はい」

やや声が裏返ってしまったが、幸いな事にエンジン音でかき消され、白煙と2ストサウンドを残してバイクは走り出した。

警察に見つからないように裏道を選んで進み、ほのかの自宅前でバイクを止め、エンジンを切った。

「ありがとう。今日は楽しかった」

「ああ、ちゃんと笑えるんならよかった」

ヘルメットを受け取りながら英一がスマホを取り出した。

「ほのかちゃん、GOINE 交換しようよ」

「あ、ああうん、はい……」

テンパりながらスマホを取り出し、チャットアプリの GOINE を開きアドレスを交換する。

「俺、晴れた夜は結構な確率であの公園にいるからさ、いつでも来てよ。ツレを誘っても来てくれないしさ。ほのかちゃんが来てくれたら嬉しいし」

「い、いいの……？」

「もちろん」

英一の笑顔に頷いて返した。

「じゃ、また」

エンジンをかけようとした時、ほのかが言った。

「あ、あのさ、そのバイク……」

「ん？ああ、兄貴のだけど ZUTSUKI のバイク」

「……頭から突っ込みそうな名前だね……」

「……」

「……ごめんなさい」

「いやでも確かに……。兄貴に変えるように言っとく。俺もあんまり乗らないようにするよ」

「ごめん、気をつけてって言いたくて……」

悪意のない言葉の方が効果的なのかも知れない。

やがてバイクはやって来た道を白煙と共に帰って行った。

——続く

秋の星空は星座を語るには最高の季節です。分

星々のなまえ



かり易くつながりのあるギリシア神話の宝庫です。

こんな時にプラネタリウムにでも行って楽しむとよい気がします。

いつもなら秋の空は明るい星が少なく、あまり星空を見ない人にとっては、なんとなく地味な感じがすることでしょう。でも、今年は違います、みなみのうお座フォーマルハウト（2018年9月第40号会報参照）を挟むように土星・木星、少し遅い時刻では火星も上がってきます。

さて、今回は夏の星「ベガ」についてです。ベガといえば夏の大きな三角形を描く星で最も明るく、七夕のころには空の真上あたりで輝く星。もちろん

七夕では織姫の星でもあります。秋になって少し西に傾き、観望しやすい場所になりました。ベガは「こと座」の α 星で、ベガから東側には似た明るさの4つの星がかわいいひし形を描いています。ベガの名の由来はアラビア語「落ちるわし」からきています。羽を広げる「わし座」に対して、こと座のほうは、降下中のわしとみていたようです。望遠鏡があるとリング星雲や、ダブルダブル（双子の二重星）など見どころもあります。

執筆：Sirius



written by Sirius

シン・会員紹介

ようやく第7波がおさまりつつあるコロナ禍。新年会・合宿等の行事遂行がままならない昨今ですが、会員各自の人となりを知ってもらうため、自己紹介ページを今号より企画しました。名付けて「シン・会員紹介」。二回目になる方もおられますが、近況を含めて書いてもらっていますのでお読みください。

「徒然なるままに」

会員番号33 てつにい

最近、めっきり天文活動にかける時間が少なくなっている。もちろん、時々カメラレンズだけを携えて、錦海湾等の近場に朝方1時間程度の短時間で撮影することはあるが、以前のように望遠鏡をセッティングし、一晩かけて直焦点撮影で撮ることはめっきり少なくなっている。

先日、久しぶりに望遠鏡を設置したが、その時に極軸を合わせるために極軸望遠鏡のメーターを覗いたら、指標がおおよそ半年前にあわせたような名残りが見れた。

岡山アストロクラブの会長たるもの、こんな活動で良いのか？と最近入会された方は驚かれるかもしれないが、生活に合わせた自分の天文スタイルなのだから、仕方ないのだ。欲を言えば新月期には、月に一度でも望遠鏡で撮ったりしたいのだが、天候やその他の事情も重なりなかなかそうもうまくいかない。

子供が生まれるまでは、平日のど真ん中でも月がなく晴れていれれば、望遠鏡を車に積み、岩

倉、加茂スポーツ公園、大芦等に行っては、夜半までは撮影し、帰宅後すぐに撮影データを処理し、睡眠2～3時間で出勤する日はよくあったし、ほぼ毎月天文雑誌になにかしら投稿をしていた。酷いときは、メーリングリストに流れてくる会員が撮影に出かける情報に誘われ、連日撮影にでかけては家に帰らずに、そのまま出社することもあった。

それが今は、夜の22時には就寝し、朝の6時に起きるという健康まっしぐらである。また撮影した画像データをパソコンなどで本格的に処理することも少なくなった。

人は変化するものと知っていたが、自分も大きく変わったなあと思うばかりだ。

余談だが、子供が生まれたときに購入したタカハシのEM400等は、購入してから一度も出されておらず高橋の段ボールの中で使われるその日をずっと待っている。もったいないと思われる方も多いと思うが、もちろんEM400購入した時には、将来的にタカハシの μ -250CRSを後に購入し、ディープスカイで直焦点撮影をしたいという目論見があった。

しかし、昨今の生活環境の変化と半導体不足によって μ 250crsが昨年から発売停止されているのもあいまって、計画が実行に移るのはいつの日になることやらという状況である。

よって、今は2035年9月2日には、大きくなった子供と一緒に遠征地で皆既日食を楽しめれば良いなと考える今日この頃である。



段ボールの中でデビューを待つタカハシのEM400 赤道儀

特別企画・天文川柳

恒例の天文川柳を募集しました。みなさんの投票等をもとに審査しました。最優秀 de 賞を含む 4 句が今回選ばれましたので、ご紹介いたします。

愉快 de 賞

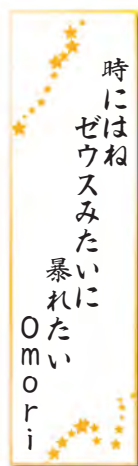
【作者の一言】入賞させていただきありがとうございます。なによりも笑っていただけた事を嬉しく思います。

ギリシャ神話はゼウスが「あつち」や「こつち」の方面で暴れ回りストーリーを動かす原動力になるわけです。

が、人間が「そつち」や「こつち」で暴れると色々と拙い事になってしまう世の中。

コロナや悪天候でストレスが溜まっている今、多少は…と思うのが人情ですね。やりませんが。

【審査委員長談】この作品を見たとき、爆笑しました。ゼウスの素晴らしい功績の数々たるもの。Omoriさんがどのように暴れたのか、コメントを楽しみにしております。



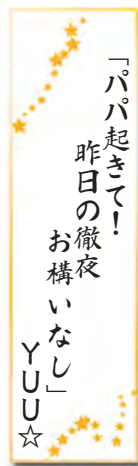
最優秀 de 賞

【作者の一言】最優秀賞をいただきありがとうございます。同じような経験をされた方に共感いただいたのではないかと思っています。

朝まで徹夜は、体的にはきついです。心は満たされますね。

最近の天気が悪い日が多いので、ゆっくり寝られる日々ですが、早くまた、川柳のような日々になってくれることを願っています。

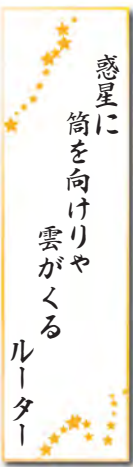
【審査委員長談】いや、この光景が容易に想像できません。天候不順等でなかなか思うように撮影に行けない中、Yuu☆さんと同じ境遇を早く味わいたいです。



残念 de 賞

【作者の一言】滑り込みで、送った1句ですが、丁度、木星撮ろうと庭で、うんうんうなっていました。いつも、私が空見て、「なんだよぉ！晴れるべー」と、赤道儀設置し、撮ろうとすると決まってる雲が湧いてくるんですよ。まるで、神様がおまへには、撮らせないぜ…と、言ってるかのよう。な、仕打ちで、くそつたれー！！馬鹿野郎！！ちつきしよー！って、思ってた浮かんだ1句でした。

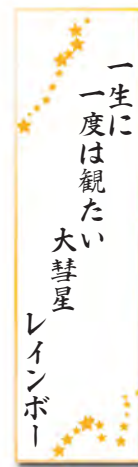
【審査委員長談】ルーターさんの心の叫び声が容易に想像できます。審査員長も2022年の夏は思うように惑星を撮影できておらず、気づいたら秋に突入してしまいました。



ロマン de 賞

【作者の一言】思いがけず賞を頂き大変驚いています。星に興味が始まり始めたのが15年前のホームズ彗星の頃。10年も経てばそのうちと思い、あれからずっと待ち続けていますが、今た全天を貫く巨大彗星には巡り合えずにいます。肉眼での大彗星と流星雨との出会いを、ただただ待ち焦がれています。

【審査委員長談】アイソン彗星、ネオワイス彗星等大彗星と言われるものが、なかなか条件に恵まれないので、この気持ちは凄くよくわかります。近年は撮影メインにソフトチェンジしているレインボーさんが、どのような光学系で観たいのか興味あります。



昔日の一葉

第24回 バーナード星

さて、本当に手持ちのネタを出し尽くした感があるこの連載、今回はもうだめかと思いましたが、ふと思い出したこの写真「バーナード星」をご紹介します。

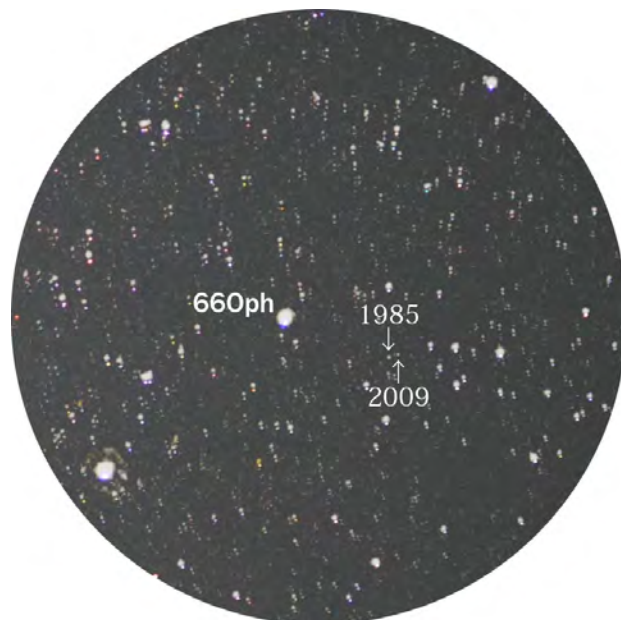


バーナード星とは、へびつかい座の右肩のあたりにある9.5等級の赤色矮星です。この星がなぜ固有名を持っているかというと、固有運動速度が全天一大きく、数百年で1度動くということを20世紀初めにアメリカのバーナードが発見したのでこの名があります。その動きの早さから“Barnard's Runaway Star”の二つ名ももっています。なぜこの星がこんなに動きが早いのかというと、太陽に三番目に近い恒星だからで、あと一万年ほどたつとケンタ

ウルス座アルファ星よりも近くなるそうです。

それはともかく、なぜこんな写真を自分がとっていたかという、もともとこの星が目的ではなかったのです。

まず一枚目、1985年の写真は、大学の天文サークルの長野県は妙高高原の合宿で晴れた三日目、撮るものがなくて中望遠レンズを使って撮った天の川沿いのNGC6633等の写真でした。そのなかにたまたまバーナード星のある領域、いわゆるポニアトフスキのおうし座あたりが一緒に入っていたのです。その後、その写真のことを忘れていましたが、だいたった2009年の夏の日、そういえばこのあたりにバーナード星があるのではと思って一枚目の写真を確認すると、それらしい星が写っています。これは確認しなくちゃ、ということでカメラそのものは変わっていますが（EM→D700）、レンズは手放さず持っていた（NikonレンズシリーズE100mmF2.8：余談ですが、このレンズ、ちょっと前のニッコール千夜一夜で取り上げられていて、その文中に自分と思しき人物が登場しているみたいです）ので、もう一度同じ所を撮って比較してみようと思い撮ったのが二枚目の写真です。この二つの写真を重ねて見たのがこの写真でした。重ねてみると確かに動いていて24年間でもかなりわかるのだとは思いました。中望遠レンズでもこのくらいわかるので、望遠鏡の直焦点では期間が短くてもわかるのではないのでしょうか。この写真を撮ってからすでに13年が経過しており、一応三十



一枚目

1985/8 NikonEM NikonLensSeriesE100mmF2.8
露出 5 分位 Kodak103aE EM-1 にて自動ガイド

二枚目

2009/8 NikonD700 NikonLensSeriesE100mmF2.8
ISO800 露出 1 分位 KenkoEQ6Pro にて自動ガイド

年目の写真は撮りましたが、あと3年ほどで一枚目の写真を撮ってから四十年。たぶん四十年目の写真は撮れるでしょうけど、五十年目はどうかなあ。

自分がカメラを初めて手にして星の写真を撮り始めてから四十年と少し。その時々にご一緒した人たちと同じ空を見上げながら、楽しく一緒に観たり撮ったりしてきました。長い間に機材はいっぱい買ったものの、進歩のない写真ばかり撮ってきたなあとしつつ、これからもぼつぼつ楽しんで撮っていきたいと思います。

執筆：T#

イベント案内

定例観望会

10月1日（土）20:00-22:00

備中国分寺（総社市）

11月5日（土）20:00-22:00

百間川せせらぎ広場（岡山市中区）

いずれもコロナウイルス感染状況により予定変更することがあります。

OACホームページでご確認ください。

発行元：岡山アストロクラブ

発行日：令和4年9月28日

次号発行予定：令和4年12月

ホームページアドレス

<http://oac.d2.r-cms.jp/>

編集後記

残念ながら今号も発行が遅れてしまいました。お詫び申し上げます。

それにしても、衰えることのないコロナ禍で下がりきらない感染者数。星見のほうも

悪天候や望遠鏡の値上げや受注停止など穏やかならざる日々が続きますが、できることをやっていくしかないんじゃないでしょうか。

